

小児在宅ケア研究会会報 第3号

平成21年4月9日

【第4回小児在宅ケア研究会年次集会のご報告】

平成20年6月14日に、第4回小児在宅ケア研究会年次集会が、「多職種協働で支える小児在宅ケア」をテーマに名古屋大学大幸キャンパスで開催されました。今年度の参加者は112名で、看護職の方以外にMSWや作業療法士、その他元小学校教諭の方など、様々な職種の方にもご参加頂きました。

年次集会では、訪問看護師の方からの在宅療養が困難であった事例、病棟で働かされている看護師の方からは母親が精神的に不安定であった事例、家族が在宅療養を希望したけれども実際には行なうことができなかった事例など、非常に複雑な背景のある事例の発表が行われ、会場内では活発な意見交換がされました。また、病棟での在宅係の取り組みや、地域医療連携室の取り組みについて、そして小児の訪問看護を長期にわたり実践されている訪問看護師からの活動報告があり、小児の在宅ケアの難しさを感じるとともに、施設ごとにその難しさに対応するために、様々な対策がとられ始めていることを感じることができました。

プログラムの最後に、「HOSPITAL PLAYの概念化を目指してPLAYの意味を考える」というタイトルで、静岡県立大学短期大学部社会福祉学科の松平千佳先生にご講演いただきました。松平先生がお話は非常にエネルギッシュで、楽しく聞かせて頂くとともに、子どもにとっての遊びの重要性を再認識させられました。また松平先生が直接関わられている在宅ケアを行なっているお子様のご家族から、非常に貴重なお話を聞くこともできました。

また、研究会に参加され方のうち75名の方には、アンケート調査にも御協力頂きました。病棟の看護師の方が60%以上と参加者の多くを占めていましたが、外来看護師や訪問看護師または保健師といった病棟以外で小児の在宅ケアに関わられている看護専門職の方の参加も増えているように思われました。研修会全体の感想としては、ほとんどの方が満足したと回答されていました。全体の感想の自由回答の中には、様々な事例や他の施設の様子を聞くことができよかったといった事例検討や活動報告に対する感想と、講演での松平先生のお話やご家族のお話について、非常に貴重なお話を聞くことができよかったといった感想が見られました。アンケート調査以外でも、事例検討の発表者の方から、他の施設の方から貴重な意見を聞くことができよかったといった感想も聞かれました。小児の在宅ケアに関しては、まだまだ情報が十分でない事も多いため、研究会が情報交換の場として有効に活用されていたのではないかと思います。研究会への要望としては、他職種の方のお話を聞いて見たい、家族の方のお話を聞きたい、具体的な在宅ケアが必要な子どもへの退院準備の計画立案の方法などを聞きたいなど、様々な意見が聞かれました。

皆様からの貴重なご意見を、今後の小児在宅ケア研究会年次集会のプログラム等に生かしていかしていきたいと考えております。アンケート調査の詳細は、資料として同封させていただきますので、ご覧下さい。



【第4回小児在宅ケア研究会総会のご報告】

第4回小児在宅ケア研究会が、研究会と当日6月14日に開催されました。平成19年度の活動報告の後、平成19年度の決算と会計監査が報告、運営委員および事務局担当者の変更、平成20年度の活動計画(案)ならびに平成20年度の予算(案)が審議され、全てについて承認が得られました。詳しくは、同封させていただきます総会資料をご覧下さい。